

長寿おめでとうございます



ひくち ゆきみ
樋口 雪美さん
(成羽町成羽)



えぐさ やえの
江草 八重野さん
(備中町布賀)

1月に100歳(大正3年生まれ)の誕生日を迎えられた方を、市職員らが訪問し記念品や花束を贈って長寿を祝いました。市内で100歳以上の方は2月1日現在で47人(男性8人、女性39人)。

お笑い川柳マツカ

鈴木 繁實さん (川上町地頭)



「迷ってる酒が利いてるこの話」

文芸コーナー

短歌

明けまして光り輝く太陽に今年も元気でと祈る老婆

赤木 文子さん (備中町西山)

厨辺に漂う湯気の芹の香の七草粥に幸せを思ふ

小野 はる恵さん (原田南町)

少子化で子供の姿消えた町正月来ても心弾まぬ

榊上 秀雄さん (備中町西山)

長生きの秘訣はなどと聞かれたりそんな老令かとおかしくもあり

三宅 誠子さん (川上町仁賀)

西山の墓地の辺のフクジュソウ主の帰り待ちて幾年

高田 眞一さん (成羽町中野)

年始客孫の笑顔に元気をもらい百まで生きると自信満々

三浦 数馬さん (成羽町中野)

花供養先生の声朗々して御室の森にひびきわたれり

高田 越代さん (宇治町宇治)

人影のなき集落に日暮れ待ち自由に荒らす猪親子

原田 由きさん (高倉町飯部)

三月月を窓越しに見て久々に亡母の形見の琴弾いてみる

山本 義慧さん (川上町仁賀)

六月ぶり遊子となりて旅立たむ心ときめく奥飛驒の空

一村 遊子さん (成羽町成羽)

俳句

球根や凍土破り春を告げ

妹尾 昌美さん (東町)

ひい孫の入学祝のランドセル

池田 節子さん (落合町阿部)

川柳

宝くじ年が明ければゴミ箱へ

内田 巧さん (落合町原田)

目標はかならずやるは今年こそ

吉岡 麻江さん (成羽町下原・鶴寿荘内)

市民のページへのお便りを募集

▶イラスト、絵手紙・絵画などの作品、短歌・俳句・川柳など(自作の未発表のもの。作品は写真をお送りください。)
※住所・氏名・年齢・電話番号を明記し投稿してください。(ペンネームを希望される場合は、その旨お書きください。)
※投稿多数の場合は、すべてを掲載できないことがあります。また、お便りは表記等を一部編集させていただくこともあります。
※原則として原稿や作品は返却できません。あらかじめご了承ください。
※締切は、掲載号の前月25日(閉庁日の場合は翌閉庁日)です。

■問い合わせ・送り先 〒716-8501(住所不要) 広報たかはし「市民のページ」係
(☎)0210・Eメール hisyo@city.takahashi.lg.jp

市民のページ

市民の皆さんがういただいたお便りなどを紹介します。



しまだ さえ
島田 紗英ちゃん
(有漢町上有漢)
平成23年2月1日生まれ
「我が家のキラキラ☆アイドル2号」
(応) 父・晃さん 母・里香さん



くらはし しゅん
倉橋 峻ちゃん
(落合町近似)
平成20年2月3日生まれ
「もっと大きくなってね♡仲良くあそぼうね♪」
(応) 兄・直重さん 姉・雪乃さん



やくし れい
薬師寺 玲衣ちゃん
(上谷町)
平成25年2月3日生まれ
「ふりまく笑顔は家族みんなの元気の源!」
(応) 父・龍盾さん 母・照代さん



どて しゅうすけ
土手 政典ちゃん
(有漢町有漢)
平成24年2月16日生まれ
「お姉ちゃんと仲良く♡元気に大きく育ってね!」
(応) 父・誠さん 母・功子さん

すこやかスマイル
お誕生日おめでとう!

2月に1歳～6歳の誕生日を迎えたお子さんの笑顔を掲載しています。毎月、誕生日を迎えるお子さんの写真を募集していますので、ご応募ください。

対象年齢が
1歳～6歳になりました♪



つじ ほのか
辻 穂乃花ちゃん
(有漢町有漢)
平成23年2月26日生まれ
「弟が大好き♡仲良く育ってね!」
(応) 父・功さん 母・梨沙さん

すこやかスマイルは、広報紙の発行月に1歳～6歳の誕生日を迎える市内在住のお子さんの写真を掲載しています。※行政チャンネルでも放送します。お子さんの氏名(ふりがな)、性別、生年月日、住所、応募者の氏名と続柄、20字以内のコメントを明記して左ページ下部の宛先へご送付ください。市ホームページ「電子申請システム」からも応募できます。

国の伝統的工芸品・山鹿灯籠を頂きました

本市の友好都市・熊本県山鹿市の山鹿灯籠は室町時代から伝わり、金灯籠、神殿造り、座敷造り、城造りなど、さまざまな様式のものを作られてきました。その作り方には①木や金具は一切使わず、和紙と少量の糊だけで作られる②柱や障子の棧にいたるまで中が空洞③灯籠としての美しさを追求するために、建物などを一律に縮小したミニチュアとしてだけではなく、縦横のスケール等を独自に工夫して作られる-という一貫した鉄則があります。



風ぐるまフェスタで「山鹿灯籠踊り」を披露
(平成23年11月13日)



灯籠製作者のことを灯籠師と呼び、高等な技術と熟練を要するため、一人前になるには、十数年の期間が必要で。現在は、7人の灯籠師が伝統を守っています。昔は女性禁制の時代もありましたが、今では女性灯籠師も登場し、繊細な感覚を生かした灯籠づくりにはげんでいます。

8月の灯籠まつりには、約30基の灯籠が奉納され、民謡「よへほ節」の調べにのせて浴衣姿の女性たちがしなやかに舞います。この山鹿灯籠は平成25年12月26日付けで、「一定の地域で主として伝統的な技術または技法等を用いて製造される伝統的工芸品」という条件を満たし、国の伝統的工芸品に指定されました。